

# 第1回 コンビナート高度統合研究会 議事要旨

1. 日時：平成17年8月2日（火）15：00～17：00

2. 場所：霞ヶ関ビル 33階 東海大学校友会館 朝日の間

3. 出席者：

伊丹委員長、橘川委員、小柳委員、増田委員、齋藤委員、大野委員、原田委員、高下委員、  
中川委員、井内委員、箱崎委員、眞鍋委員

4. 議題

わが国石油産業、石油化学産業の今後の展開

- 現状認識と研究の進め方 -

(1) 研究会の実施・運営について

(2) 石油産業、石油化学産業の現状と課題について

5. 議事要旨

委員からの主な発言は以下のとおり。

## <研究会の実施について>

日本の石油精製と石油化学あるいは下流の化学企業との様々な関係で複雑につくられたコンビナートが、将来を見渡したときにどんな構造にしておくのが産業の発展のためになるのか、石油精製と石油化学という垣根の在り方はどうあるべきか等を、長期的に十分な国際競争力という観点から考えておくべきではないか。

## <石油産業、石油化学産業の現状と課題について>

石油・石油化学製品の生産に関して、汎用の中にも特徴を持ち競争力のあるものを見つけていくこともコンビナートの課題の一つと考えられる。

従来、コンビナート内での壁があったが、コンビナート・ルネッサンスということで問題提起が始まり、各企業の連携に関して新たな展開となってきた。石油精製と石油化学が連携し、インテグレーションを中心とした取り組みが進んできている。また、企業間の信頼関係を築ききっかけともなり、個別企業間ベースの垣根を取り外して全体最適を実現するという意義があったと考える。

石油精製と石油化学のみとどまらず、電力、鉄鋼、ガスといったプレイヤーの存在も考えていくべき。

コンビナートベースで競争力を考えるのか、あるいは最終的にコンビナートが効率化することによって個々の企業が強くなり、国際競争力が強くなるのか等について考えていくことが重要である。

それぞれの産業が、わが国の水際での競争力を持てばよいか、また、輸出を含めて中国やアジア市場に対する差異化した誘導品の供給をするのか等についての整理、議論が必要である。何を競争するのかというところで、コンビナートのあり方が変わる。

内需、国際競争の面について今後議論し、整理をしていくことが必要ではないか。コンビナート・インテグレーションが進む中で、連携先双方において相矛盾する点も出てきていることがあれば明らかにしていくと共に、それを乗り越えていくことを考えることも必要である。

まず必要なのは、コンビナートの各企業がどうなりたいかという思いであって、そこから何をすべきなのかを演繹的に考えない限り、コンビナートのあるべき姿は出てこないのではないかと

以上

## コンビナート高度統合研究会名簿

(敬称略)

### 委員長

いたみひろゆき  
伊丹 敬之 一橋大学大学院 商学研究科 教授

### 委員

きっかわたけお  
橋川 武郎 東京大学 社会科学研究所 教授

はせべしんじ  
長谷部伸治 京都大学大学院 工学研究科 化学工学専攻 教授

つつみあつし  
堤 敦司 東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 助教授

こやなぎおさむ  
小柳 治 日本政策投資銀行 総務部 審議役

ますだたかし  
増田 貴司 東レ経営研究所 産業経済調査部長

さいとうじゅん  
齋藤 旬 東京大学先端科学技術研究センター 客員研究員

株式会社ニコン コアテクノロジーセンター 主幹研究員

おおのひろし  
大野 博 新日本石油精製株式会社 代表取締役 副社長

はらだまさお  
原田 征夫 出光興産株式会社 代表取締役 副社長

こうげえつじろう  
高下悦仁郎 三菱化学株式会社 常務執行役員〔石化セグメント分担(石化基礎分野)〕

なかがわじゅんいち  
中川 淳一 三井化学株式会社 執行役員〔市原工場長〕

いうちけんすけ  
井内 謙輔 丸善石油化学株式会社 取締役 技術開発部長

はこざきいいち  
箱崎 慶一 経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部 石油精製備蓄課長

まなべたかし  
眞鍋 隆 経済産業省製造産業局 化学課長

計 14 名